

農大生が取り組んでいる花きの研究

和歌山県農林大学校

花きコース長 神谷 桂

今回は平成 30 年度卒業論文の中から阪口愛花音さんの「ポットハボタンの 12 月中旬出荷に適した播種時期」の一部を紹介します。

本校では毎年 12 月初旬に開催する農林大祭や年末の販売に向けてパンジー、ビオラ等の花壇苗を栽培しています。また、ポットハボタンも作っており、通常、矮性丸葉種の F1 はと系や矮性ちりめん種の F1 すずめ系を栽培しています。今回は高性種で光沢のあるメタリックな質感が特徴の“プラチナケール”のポットハボタン仕立てを卒業論文のテーマとしました。

1 試験方法

供試品種としてタキイ種苗株式会社の“F1 ルシールワイン (以下ワイン)”、“F1 ルシールバニラ (以下バニラ)”を用いました。試験区は播種日とし、2018 年 7 月 26 日、8 月 6 日、8 月 16 日、8 月 27 日、9 月 6 日、9 月 16 日で約 10 日間隔の 6 区設定としました。288 穴プラグトレイに育苗培土を詰めて、覆土はバーミキュライトを用いました。矮化剤処理は子葉展開後にビーナイン水溶剤 200 倍を約 25ml/プラグトレイ、本葉 3～4 枚展開期にスミセブン P 液剤 10 倍を約 200ml/プラグトレイそれぞれハンドスプレーで茎葉散布しました。2 回目の矮化剤散布翌日に 9 cm 黒ポリポットに鉢上げをしました。用土は和歌山県農林大学校標準培土 (ピートモス 40%、パーライト 20%、バーミキュライト 20%、真砂土 20%) を用いました。また、鉢上げ 25 日後に緩効性固形肥料 (10-10-10) を 2 粒 (1～2 g) /ポットで施用しました。また、鉢上げ 14 日後にビーナイン水溶剤 200 倍を約 3ml/ポット、その 14 日後にスミセブン P 液剤 10 倍を

約 3ml/ポット散布し、矮化剤処理は合計 4 回行いました。栽培は開放したガラス温室で行い、かん水は 3 回/日で上部からのミストかん水としました。

追肥は鉢上げ 25 日後 2 粒/ポット、55 日後 1 粒/ポットを施用しました。

調査日は各区とも 12 月 11 日とし、調査項目は「草丈」、「株幅」、「着色部径※」、「地上部生体重」の 4 項目としました。また、着色部径/株幅から「着色部率」を算出しました。 ※着色部分の最大幅

2 試験結果

草丈：両品種とも 7 月 26 日播種が一番高く“バニラ”は 10.5cm、“ワイン”は 8.9cm で、播種日が遅いほど低くなりました (図 1)。

株幅：両品種とも、播種日による大きな差は見られませんでした (図 2)。

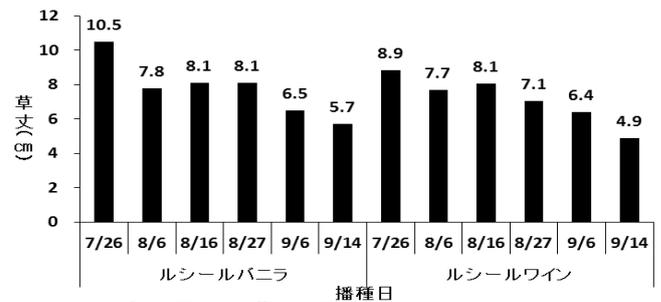


図1 播種日による草丈の違い

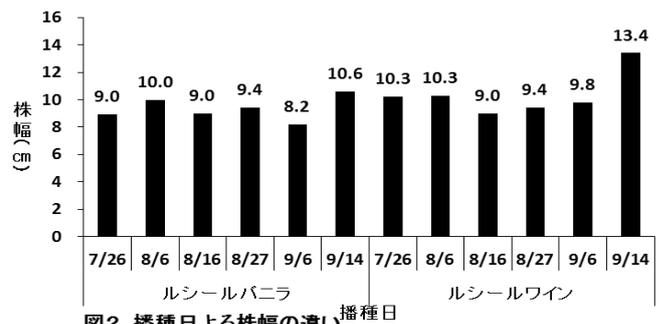


図2 播種日による株幅の違い

着色部径：、「バナラ」は7月26日播種で7.2cm、「ワイン」は8月6日播種で8.8cmと最大となりました。播種が遅くなるほど小さくなりました。また、9月14日播種を除き「ワイン」が「バナラ」より大きくなる傾向がありました（図3）。

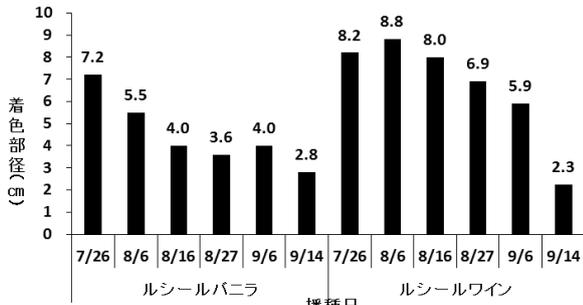


図3 播種日による着色部径の違い

地上部生体重：最大は「バナラ」は8月27日播種で24.4g、「ワイン」は8月6日播種で25.1gとなりました（図4）。

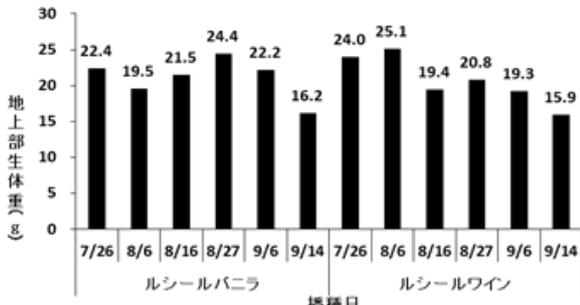


図4 播種日による地上部生体重の違い

着色部率：「バナラ」は7月26日播種では80.4%でしたが、それ以降は55%以下となりました。「ワイン」は8月16日までの播種で80%以上であり、それ以降は低くなりました（図5）。

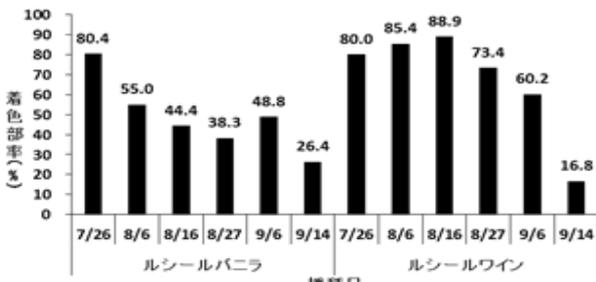


図5 播種日による着色部率の違い



7/26 8/6 8/16 8/27 9/6 9/16



図6 播種日による生育の違い(2018 12/11)

“F1 ルシールバナラ” (上) “F1 ルシールワイン” (下)

3 まとめ

今回の調査結果から地上部の大きさ、着色部率を考慮して、本県紀北地域で12月中旬出荷に適したポットハボタンの播種時期は“F1 ルシールワイン”で7月26日、“F1 ルシールバナラ”7月26日か遅くとも8月6日までと考えられました。

今回の試験では一部に結球や色戻りが見られました。着色が始まった後で気温が高くなったことも要因として考えられますが、施肥量による影響も考えられます。今後は施肥量の検討も必要であると考えます。